いのため冬目の立ちが少なく、色合も吉野杉に比べて少し劣る。用途も吉野杉と同様のものに用いられる。

◦春日杉。～ 大和地方、伊賀地方に産し、特に春日大社境内より裏山の方によい原木がある。杢目が荒杢しだれ杢を呈し、色合は薄黄色の所々に薄紅色のあるのが特徴である、数寄屋建築の天井板材として最上品として扱われるが、現在では張り材に多く使われている。

◦屋久杉。～ 現在では名が通り、色々な家具類に使われているが、建築造作材としてはあまり用いられない。木質は冬目が薄黒色、夏目は薄茶色であり、杢目は笹杢系統で、高級品として扱われている。

◦霧島杉。～ 材の原木には大きい材が少ない。木質は冬目がよく立ち、夏目も余り柔らかさがなく、色合いは斑のない薄黄色である、杢目は笹杢で小さな部屋の天井として非常によいものとされ、現在では高級品であるため多く張り材として用いられることが多い。

◦薩摩杉。～ この杉材は天井板として多く使われている。原木に太い材が多いので、天井板としても幅の広いものがとれるので、座敷の天井板としては、八畳以上の広間に、また造作材として床の間の落掛にも使われている。木質は薄茶系統で、杢目が荒杢しだれ杢を呈し、年輪は冬目がよく立ち最高級品として扱われている。特別な用途としては茶道具の棚物などに用いられている。

◆桧 材。～ 木曽、尾州、美濃地方に産するものが有名である。非常によく育ったものが多く、曲がりのない大材を産する。木質は堅くなく柔らかくなく申し分のない材料といえる。色合は薄白黄色で均一である。伊勢神宮は本殿をはじめ各建物が皆この尾州桧を用いている。このように建築用材に使われる他、神具用材としても使われている。桧は尾州が最上であるが、他にも吉野桧や四国地方などの中にもこれと変らぬ程の良材がある。ただ吉野桧と尾州桧に比べると、やや薄赤味のある肌合をもつ。またこの他に産する桧は色合いに赤味が濃いものが多く見うけられる。用途としては、柱、造作材に用いられている。

◆松 材。～ 松材の良し悪しを見分けるのは専門の材木屋さんでもなかなか見分けが難しいものである。

◦日向松(ひゅうがまつ)。～ 日向、肥後地方に産し、最上の松材と言える。木質は尾州桧によく似ており、冬目はよく通り夏目も美しく、加えて脂けの少ないものであり、特に使用後2～3年ほどで薄紅色となり松材として最高級品といえよう。用途としては四方柾取りの床柱に用いられる他、数寄屋造りで「松の間」と称して造作材一式をこの日向松で造ることもある。

◆栂 材(とがざい)。～ 各地に産するが、吉野泥川産のものが最上といわれる。木質は冬目がよく立ち削ると艶よく仕上がるものである。関西では良材が少ないためか、栂普請(ぶしん)と称して化粧材一式を栂材で造ったものを上等なものとしている。他に表通りの門や大屏造りにも多く使われていた。